【基盤研究（S）】

大区分Ａ

研究課題名　社会性の起原と進化：人類学と霊長類学の協働に基づく人類進化理論の新開拓

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授　河合（かわい）　香吏（かおり）

研究課題番号：19H05591　研究者番号：50293585
キーワード：社会性、人類進化、人類学、霊長類学、現場性

【研究の背景・目的】

人間を含む霊長類の多くは、群居性動物として、さまざまな様態で群れ集い、平和的に、また時には敵対的/競合的に、他者と共に生きている。人間は中でも極めて多くの個体との共存を実現しており、ペアや家族や共住集団といった対面的な共存をするばかりでなく、民族集団や国民、果ては全人類の共存までを「想像」することができる。こうした全地球的規模の多様な共存を根底で支えているのは、人間の「社会的なあり方」、すなわち高次の「社会性」にほかならない。本研究の目的は「社会性」を鍵とした新たな人類進化理論の構築にある。そのために、人間の諸社会を対象とする人類学と、人間に近縁な霊長類の諸社会を対象とする霊長類学という 2 つのフィールド系学問の協働を軸に、実験系分野や自然人類学系分野といった隣接諸学との対話も重視しつつ、学際的な共同研究を展開する。

【研究の方法】

本研究では、人間の生活集団や野生霊長類の群れを対象に、フィールドにおいて「現場性」と「全体性」に注意を払いつつ、社会的存在として出会う個体同士の相互行為のプロセスの詳細を観察し記述する、広義のエスノグラフィーという人文社会科学的な視点と方法をとる。ここで心がけるべき重要な点は、人類学と霊長類学とで最大限、同じ方法で同質のデータを収集し、それらを同じ概念を用いて分析・考察することである。だが、活動の内容や複雑さが異なる諸種の共住集団において、比較分析に耐え得る同等な質・量のデータを収集するのは容易ではない。この状況に鑑み、本研究では、調査手法自体の開拓を枢要な研究目標の一つとする。その第一歩では、個体間の相互行為を観察し記述する方法的試みとして、霊長類学で一般的な「個体追跡法」を人類学においても採用し、個体間の相互行為に関する質的観察データの収集方法を精緻化することから開始する。

図１　研究方法

【期待される成果と意義】

人間のさまざまな特性を進化の枠組みで研究することは、今日、多くの学問分野で進められている。人文社会系の学問分野においても、新たな視点で進化が語られるようになってきた。本研究では、「社会性」をめぐり、地域、文化、そして種をも超えて比較研究を展開する。これにより、進化を謳う諸研究にしばしばみられる、社会行動や文化現象をも個や遺伝子に還元して説明しようとする還元的定式化への指向や数理への依拠を乗りこえる可能性が開かれる。そのうえで最終的に、「われわれはどこから来て、何者であり、どこへ向かうのか」という人類学の究極課題を問い直す。

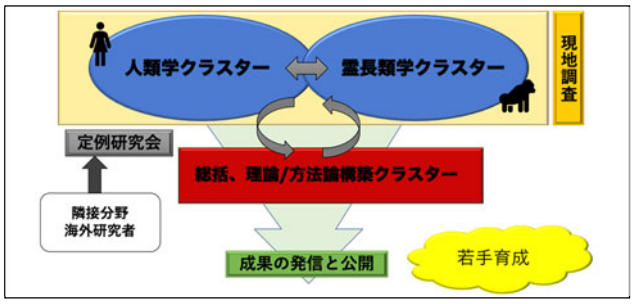

図２　研究組織と研究形態

【当該研究課題と関連の深い論文・著書】

・河合香吏編『他者：人類社会の進化』京都大学学術出版会（2016）
・河合香吏編『制度：人類社会の進化』京都大学学術出版会（2013）
・河合香吏編『集団：人類社会の進化』京都大学学術出版会（2009）

【研究期間と研究経費】

令和元年度－令和 5 年度
130,400 千円

【ホームページ等】

http://human4.aa-ken.jp
（2019 年度中に本課題の HP を新規開設する予定）